

# ふるさと御所 文化財探訪

## 弥生時代（7） 倭国大乱と 高地性集落

生涯学習課文化財係  
☎内線696

弥生時代は水稲による農耕社会です  
から、集落は平地に営まれるのが一般  
的ですが、ときには標高100〜200mの小  
高い丘陵上や山頂に集落が営まれる場  
合があります。  
高地性集落と呼ばれるこの種の集落  
は稲作には適さず、大形石鏃や金属製  
鏃あるいは投弾などの出土が目立つの  
で、軍事的な目的のための集落とみら  
れており、一方で、この種の集落では  
不用とみられる水田用の石包丁（先月  
号参照）なども出土することがあるた  
め、戦乱時における逃城としての性格  
も併せ持っていたと考えられています。  
高地性集落は弥生中期（紀元前後の  
およそ300年間）には中部瀬戸内から大  
阪湾岸に、弥生後期（2〜3世紀）に

は近畿地方とその周辺に集中する傾向  
が知られています。うち、後期の分  
布の特徴は、中国の史書『後漢書』卷  
八五東夷列傳第七五に「桓帝・靈帝の  
治世の間（146年〜189年）、倭国は大い  
に乱れ、さらに互いに攻め合い、何年  
も王がいなかった。」とあることと関  
連のあるものとして注目されています。

御所市内の高地性集落もまさに  
その時期に営まれており、発掘調  
査が行われた巨勢山丘陵上の巨勢  
山境谷遺跡・巨勢山八伏遺跡・巨  
勢山中谷遺跡のほか、国見山遺跡  
吐田平遺跡などが知られています。

巨勢山境谷遺跡と巨勢山八伏遺  
跡ではノロシの痕跡とみられる焼  
土や炭の詰まった穴が見つかって  
います（写真1）。これは領域内  
への外敵の侵入を、母集落である  
鴨都波遺跡などに対していち早く  
知らせるためのものでしょう。

また、巨勢山中谷遺跡では5棟  
以上の住居跡（写真2・3）が検  
出されており、高地性集落では恒  
常的な居住が行われていたことが  
分かります。このほか巨勢山境谷  
遺跡では墓の存在（写真4）も知  
られています。

さて、奈良盆地内の高地性集落  
は弥生時代が終わるまでには一斉  
に廃絶しますが、これを戦乱の終  
結と捉えるならば、先に紹介した  
『後漢書』卷八五東夷列傳第七五

の続く段において「一人の女子が現れた。  
名を卑弥呼と言ひ、年長になつても嫁かず、  
鬼道（まじないや予言など）を用いてよく  
衆を惑わしたので、ここに於いて王に共立  
した。」とすることに良く合致します。  
つまり、奈良盆地内の高地性集落に象徴  
される倭国大乱は、邪馬台国の女王卑弥呼  
の共立によつて収束したというわけです。  
古墳時代の到来は、まさに目前に迫ってい  
ました。



写真1 ノロシ用の穴（巨勢山八伏遺跡）  
焼土と炭がびっしりと埋まっていた。



写真2 巨勢山中谷遺跡の竪穴式住居 1  
丘陵上にあり、背景からその標高の  
高さがよく分かる。



写真3 巨勢山中谷遺跡の竪穴式住居 2  
この住居跡には土器がたくさん残されていた。



写真4 巨勢山境谷遺跡の土器棺  
2つの甕を合わせて棺とする。改葬墓か？

### 編集後記

先日、テレビでアレルギーの特集をしていました。実は私も、さまざまな物質に対してアレルギー反応を起こす体質なので、決して人ごとではなく、恐怖すら感じて見えていました。今は花粉に苦しめられる日々が続いています。私はヒノキが主なので、まだまだこれからが正念場です。しかし、私にとって最も恐ろしいのは「そば」です。直接食べるだけでなく、そばを煮込んだ汁を飲んだり、そば粉を吸い込んだりするだけでも、のどの不快感から始まり、発疹、消化管の硬直、呼吸困難と命にかかわる重篤症状に陥ります。恐るべし、アレルギー反応。(久)

